

第109期 中間報告書

2014年4月1日～2014年9月30日



ロッテルダムからモスクワへ至る独自の一貫輸送サービス「EB3000」

With Your Life



株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

第109期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

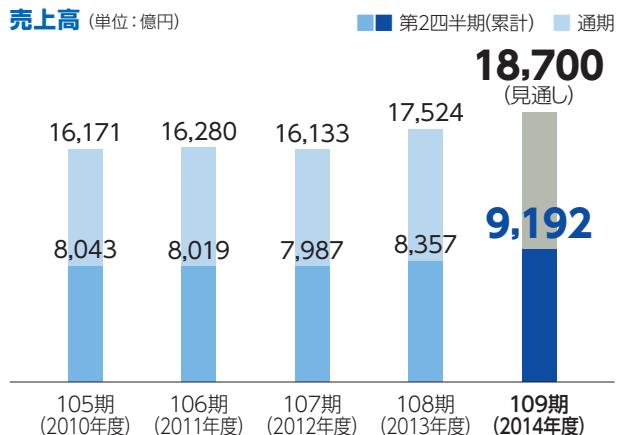
代表取締役社長

波邊健二

CONTENTS

株主の皆様へ	P 1
連結業績の推移	P 1
国内トピックス	P 5
海外トピックス	P 7
連結財務諸表	P 9
会社の概況	P 11
株主さまインフォメーション	P 13

連結業績の推移



当第2四半期のわが国経済は、消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動や天候不順などの影響により、個人消費や企業生産の一部に弱さが見られたものの、政府の経済施策による円安・株高を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

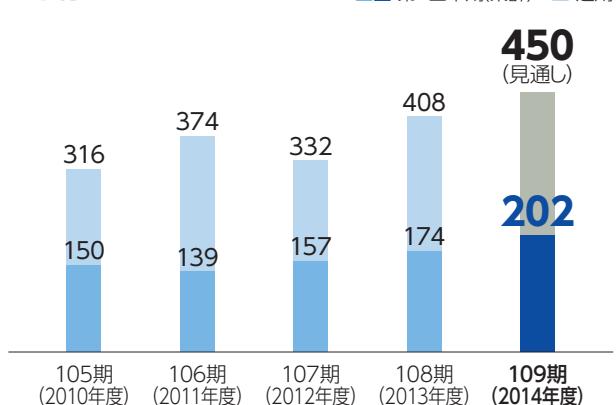
このような経済情勢のなか、物流業界における国内貨物は、消費関連貨物の減少に加え、建設関連貨物も落ち込んだことから、総じて低調に推移いたしました。一方、国際貨物につきましては、輸入が伸び悩んだものの、世界経済の緩やかな回復を受け、輸出は堅調な伸びを示し、全体として底堅く推移いたしました。

日通グループは、このような経営環境のもと、3年間の中期経営計画である「日通グループ経営計画2015－改革と躍進－」の折り返しの年度を迎えるにあたり、より

一層の成長を目指し、「グローバルロジスティクス事業の更なる拡大」「国内事業の経営体質強化」「グループ各社の多様性を活かした事業拡大」「CSR経営に基づく、事業を通じた社会への貢献」の4つの基本戦略にグループ一丸となって取り組んでまいりました。

主な取組につきましては、グローバルロジスティクス事業において、海外輸送ネットワークの拡充による複合一貫輸送サービスの強化やアセアン地域における域内物流の取り込みに向けた拠点展開に加え、重量品建設などの専門分野へ積極的に設備投資を行うなど、多様化する物流ニーズに応えるべく、海外事業の基盤強化に取り組んでまいりました。また、国内事業につきましては、地域ブロックにおける陸・海・空の組織再編や大都市圏でのあらゆる輸送モードに対応した国内最大規模の

営業利益 (単位: 億円)



セグメント別の状況(連結) (単位: 億円)

			売上高	セグメント利益
運 送	国内 会社	複 合 事 業	3,655	64
		警 備 輸 送	276	3
		重 量 品 建 設	246	11
		航 空	918	25
	海外 会社	海 運	596	29
		米 州	374	17
		欧 州	395	10
		東 ア ジ ア	480	7
	南アジア・オセアニア	291	6	
販 売		2,084	27	
そ の 他		538	7	
調 整 額 (全 社 ・ 消 去)			△ 667	△ 9
計			9,192	202

株主の皆様へ

物流施設の建設を計画するなど、ワンストップで商品・サービスが提供できる営業体制を強化するとともに、運行管理と作業管理を統合した新システムの導入により、経営資源の効率的な運用を図り、利益の最大化に努めてまいりました。

この結果、第109期第2四半期連結経営成績につきましては、

売上高は 9,192億円(前年同期比 10.0%増)

営業利益は 202億円(前年同期比 15.7%増)

経常利益は 250億円(前年同期比 11.7%増)

四半期純利益は160億円(前年同期比115.7%増)

となりました。

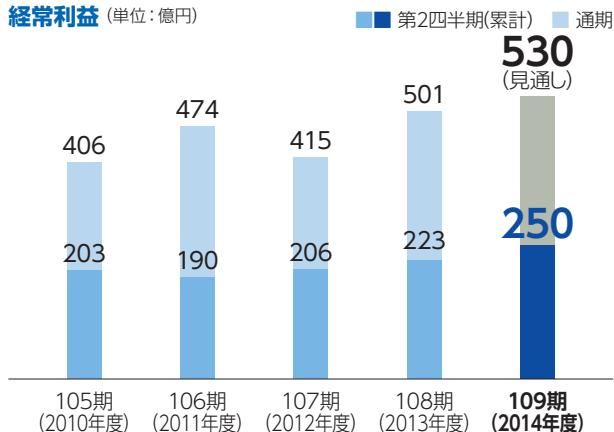
なお、第109期中間配当金につきましては、さる10月31日開催の取締役会において、普通株式1株につき5円とし、支払開始日を本年12月2日とすることを決定させていただきました。

当下半期の経済動向につきましては、海外経済では、世界的に地域紛争などの地政学リスクが潜在化するなか、ユーロ圏や中国において景気の減速感が強まっているものの、堅調な米国経済が景気回復を牽引するものと期待されております。また、国内経済では、企業収益の改善による設備投資の増加が見込まれる一方、円安の影響や消費増税の負担による物価の上昇から、個人消費の回復ペースは鈍く、景気は先行き不透明な状況で推移するものと予測されております。

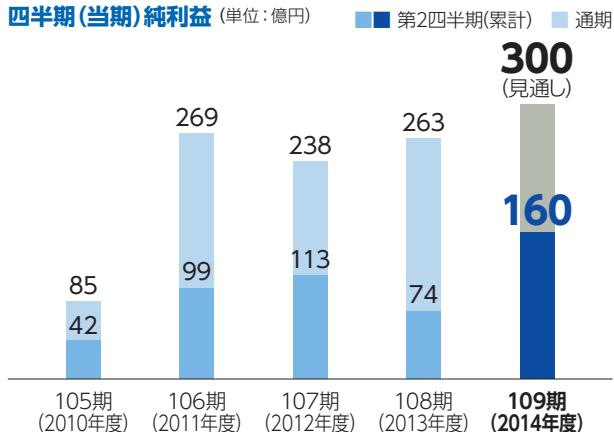
物流業界におきましては、国際貨物が、世界経済の回

連結業績の推移

経常利益 (単位: 億円)



四半期(当期)純利益 (単位: 億円)



復を背景に輸出を中心として堅調に推移するものの、国内貨物は、消費マインドの冷え込みから、引き続き消費関連貨物などが伸び悩むと見込まれるなか、人手不足や燃油費高騰によるコスト増加の問題に加え、物流を支える人材の確保や国際物流におけるセキュリティの向上と物流効率化の両立など、取り組むべき多くの課題に直面しております。

日通グループは、このような経営環境の変化に柔軟に対応しながら、持続的な成長を目指し、「日通グループ経営計画2015-改革と躍進-」の達成をグループが一体となり、着実に遂行してまいり所存でありますので、今後とも、株主の皆様のアたたかいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月

日通グループ経営計画2015

- 改革と躍進 -



- グローバルロジスティクス企業
- 地球への責任を果たす企業
- 人にやさしい企業

国際関連事業売上高比率

2015年度 **40%**

国内複合事業営業利益率

2015年度 **3%**

改革・躍進

経営計画の基本戦略

1 成長性

グローバルロジスティクス
事業の更なる拡大

2 収益性

国内事業の経営体質強化

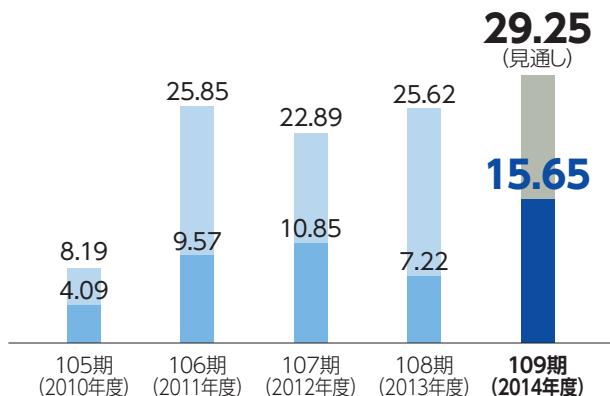
3 成長性

グループ各社の多様性を
活かした事業拡大

4 社会性

CSR経営に基づく、事業を
通じた社会への貢献

1株当たり四半期(当期)純利益 (単位:円) ■ 第2四半期(累計) □ 通期



総資産・純資産 (単位:億円)



国内トピックス

(2014年4月1日～2014年9月30日)

当社では国内において、当上半期も様々な活動を行ってまいりました。こちらではその一部をご紹介します。

国内ネットワーク (2014年9月30日現在)

● 統括支店

札幌支店、仙台支店、群馬支店、東京支店(東京都中央区)、名古屋支店、大阪支店、四国支店(高松市)、広島支店、福岡支店、東京航空支店(東京都港区)、東京国際輸送支店(東京都港区)、関東警送支店(東京都江東区)など61支店

※なお、上記のほか、全国各地に169支店および131営業支店ならびに営業所・事業所などを配置しております。



2014
4月

「新東京物流センター」(仮称)の建設計画を発表

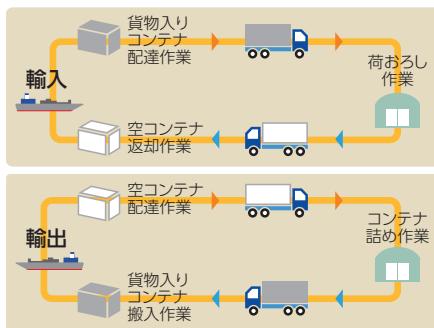
当社は、国内最大規模となる物流施設「新東京物流センター」(仮称)の建設計画を発表いたしました。当物流センターは、東京都江東区新砂に延床面積約15万㎡を有し、陸・海・空のあらゆる輸送モードに対応できる多機能型物流施設です。今後は近隣への拠点と連携し、幅広い物流ニーズに応えてまいります。竣工は2016年4月の予定です。



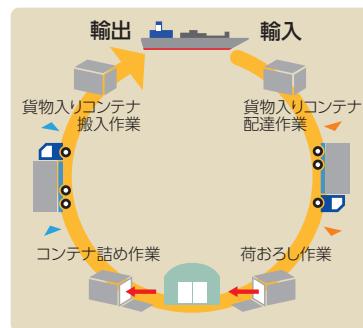
2014
5月

業界初のコンテナマッチングセンターを開設

当社は、輸入で使用した空コンテナを港へ返却せず、輸出コンテナとして使用する「ラウンドユース」の推進に向けて、物流業界初の「輸出入コンテナマッチングセンター」を設立いたしました。コンテナの往復利用によりトレーラー運行数が削減され、コスト効果とともに、港湾周辺の渋滞緩和やCO₂排出量の低減にも寄与いたします。



従来の海上コンテナ輸送形態



ラウンドユースを組み合わせた輸送形態

2014

7月

「オペレーション支援システム」を導入

当社は、多様化する作業情報を一括管理するため、運行管理と作業管理を統合した「オペレーション支援システム」の運用を開始いたしました。特に、各車両に配備した専用スマートフォンとの連動により、リアルタイムに車両の運行情報が把握でき、作業状況の「見える化」「効率化」を実現いたしました。



2014

9月

全国フォークリフト 運転競技大会で優勝

当社は、9月28日に陸上貨物運送事業労働災害防止協会が主催する「第29回全国フォークリフト運転競技大会」に出場いたしました。同大会はフォークリフトオペレーター日本一を向け、学科、点検及び運転の3種目を競い合うもので、新潟支店新潟物流事業所の飯島選手が優勝、横浜支店綾瀬物流センター事業所の星野選手が準優勝に輝きました。



左から、優勝した飯島選手、準優勝した星野選手

2014

9月

「国際物流総合展2014」へ出展

当社は、9月9日～12日に公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会他6団体の主催するアジア最大規模のロジスティクス展「国際物流総合展2014」に出展いたしました。当社ブースでは「世界日通。」をテーマに、グローバルロジスティクスソリューションや最新の物流機器を紹介し、プレゼンテーションセミナーなども行いました。



ecoトピックス

当社では省資源化・循環型社会の実現に向けて様々な活動に取り組んでおります。

「エコドライブプロジェクト」によるCO₂削減

2014年6月20日、当社およびベトナム日本通運株式会社による「ベトナムにおけるエコドライブプロジェクト」が、環境省の二国間クレジット制度*を利用したプロジェクト設備補助事業に採択されました。

同プロジェクトは、ベトナム日本通運株式会社が使用するトラック130台にエコドライブ啓発システムを装備し、燃料給油量、走行距離、運転行動などのデータを収集・分析する取組みです。このデータをドライバー教育に活かすことで、燃費効率を向上させ、年間310トンのCO₂削減効果を創出いたします。

*同制度は、途上国の温室効果ガス削減・吸収に対する日本の貢献を定量的に評価し、日本の削減目標の達成に活用するものです。



環境への取組みを含む日通グループのCSR活動を記載しているCSR報告書は、ホームページ内「会社情報」からご覧いただけます。

<http://www.nittsu.co.jp/corporate/csr/index.html>

海外トピックス

(2014年4月1日～2014年9月30日)

グローバル戦略を推進する当社は、海外において、当上半期も様々な活動を行ってまいりました。こちらではその一部をご紹介します。

海外ネットワーク 世界40カ国、229都市に481の拠点を構えております。
(2014年9月30日現在)

● 米州地域

米国、カナダ、ブラジル、メキシコ、コロンビア

● 欧州地域

ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコ、ポーランド、ロシア、英国、アイルランド、オランダ、ベルギー、フランス、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル、アラブ首長国連邦、トルコ、南アフリカ、スウェーデン、ノルウェー

● 東アジア地域

中国、韓国、台湾

● 南アジア・オセアニア地域

シンガポール、バングラデシュ、ミャンマー、カンボジア、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア、インド、ベトナム



会社情報



サービス情報

2014
4月

カンボジア発の新輸送サービスを開始

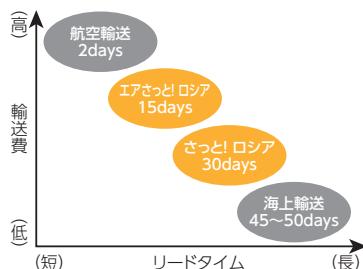
当社は、カンボジア・プノンペンから日本への複合輸送サービス「NEXSAO-CAMBODIA SAT (Truck & Sea/Truck & Air)」を開始いたしました。プノンペン-ホーチミン間をトラック輸送することにより、海上輸送では東京港などの主要港までのリードタイムが最大6日短縮され、航空輸送ではホーチミン発の直行便による安定した輸送を実現いたしました。



2014
9月

「エアさっと!ロシア」「さっと!ロシア」を発売

当社は、小ロット貨物を対象とした日本発ウラジオストク経由モスクワ向けSEA & AIRサービス「エアさっと!ロシア」と、重量建てのSEA & RAILサービス「さっと!ロシア」の販売を開始いたしました。これにより、ロシア向けの複合一貫輸送サービスを拡充し、リードタイムの短縮と輸送費用削減を実現いたしました。



2014
5月

1,350トン吊り大型 クローラークレーンを導入

当社は、LNG(天然ガス)プラント設備などの重量物を吊り上げる1,350トン吊りの大型クローラークレーンを導入し、東南アジア地区に配備いたしました。近年、重量品建設では、設備機器を生産拠点であらかじめ組み立てて輸送し、現地で大型のクレーンを使用して据え付けるケースが増えております。今後、成長する東南アジアにおいて、こうした需要を確実に取り込んでまいります。



2014
5月

タイに新物流拠点 「カビンブリロジスティクスセンター」を開設

タイ日本通運倉庫株式会社は、アセアン域内物流の要衝として期待されるハイテックカビン工業団地内に、倉庫・コンテナヤードを併設した新拠点「カビンブリロジスティクスセンター」を開設いたしました。成長著しいアセアン地域で、多様化する物流ニーズに応じた付加価値サービスを提供してまいります。



2014
5月

インドで日系企業初の AEO認可事業者資格を取得

インド日本通運株式会社は、現地の認証機関よりAEO (Authorized Economic Operators) の認可事業者資格を取得いたしました。AEO認可制度は、貨物のセキュリティ管理と法令遵守体制が整備された事業者に対し、税関手続上の優遇措置を与えるものです。インド日本通運株式会社は、同国において日系企業初のAEO認可事業者となりました。



連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	当第2四半期末 2014年9月30日現在
資産の部	
流動資産	641,297
現金及び預金	170,239
受取手形	15,027
売掛金	275,543
たな卸資産	7,801
その他	173,930
貸倒引当金	△ 1,245
固定資産	733,241
有形固定資産	509,337
車両運搬具(純額)	21,949
建物(純額)	238,572
土地	174,009
その他(純額)	74,805
無形固定資産	55,968
のれん	15,469
その他	40,499
投資その他の資産	167,936
投資有価証券	115,162
その他	53,947
貸倒引当金	△ 1,173
資産合計	1,374,539

区 分	当第2四半期末 2014年9月30日現在
負債の部	
流動負債	421,350
支払手形	6,763
買掛金	143,221
短期借入金	68,790
未払法人税等	10,864
賞与引当金	20,411
米国集団訴訟関連引当金	3,315
その他の引当金	87
その他	167,896
固定負債	434,676
社債	65,000
長期借入金	194,431
その他の引当金	1,257
退職給付に係る負債	130,977
その他	43,010
負債合計	856,027
純資産の部	
株主資本	507,330
資本金	70,175
資本剰余金	26,908
利益剰余金	427,635
自己株式	△ 17,388
その他の包括利益累計額	△ 2,902
その他有価証券評価差額金	42,916
繰延ヘッジ損益	67
為替換算調整勘定	△ 690
退職給付に係る調整累計額	△ 45,196
少数株主持分	14,083
純資産合計	518,511
負債純資産合計	1,374,539

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

区 分	当第2四半期(累計) 2014年4月1日～ 2014年9月30日
売上高	919,222
売上原価	856,731
売上総利益	62,491
販売費及び一般管理費	42,289
営業利益	20,201
営業外収益	7,036
受取利息	329
受取配当金	1,595
持分法による投資利益	149
その他	4,962
営業外費用	2,236
支払利息	1,460
その他	775
経常利益	25,001
特別利益	6,768
固定資産売却益	1,613
投資有価証券売却益	5,146
その他	8
特別損失	5,533
固定資産処分損	2,095
投資有価証券評価損	3
米国集団訴訟関連引当金繰入額	3,315
その他	119
税金等調整前四半期純利益	26,235
法人税等	9,890
少数株主損益調整前四半期純利益	16,344
少数株主利益	286
四半期純利益	16,058

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区 分	当第2四半期(累計) 2014年4月1日～ 2014年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,147
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,539
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,314
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,642
現金及び現金同等物の増減額	△ 8,348
現金及び現金同等物の期首残高	125,900
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	172
現金及び現金同等物の四半期末残高	117,724

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、211億円の収入となりました。これは税金等調整前四半期純利益が262億円となったこと等によるものです。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、185億円の支出となりました。これは固定資産の取得による支出264億円等によるものです。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、93億円の支出となりました。これは社債の償還による支出150億円等によるものです。

より詳細な業績の情報は、当社のIRサイト

<http://www.nittsu.co.jp/ir/index.html>
をご覧ください。

日本通運 IR

検索

会社の概況

会社概要

会社名	日本通運株式会社 (NIPPON EXPRESS CO.,LTD.)	
設立	1937年10月1日	
資本金	701億75百万円	
従業員数	33,127名	
本社	〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号 TEL.03-6251-1111 http://www.nittsu.co.jp/	
連結子会社および持分法適用会社	連結子会社 258社 持分法適用会社 28社	

役員

● 取締役

代表取締役会長	川 合 正 矩
代表取締役社長 社長執行役員	渡 邊 健 二
代表取締役副社長 副社長執行役員	中 村 次 郎
代表取締役副社長 副社長執行役員	大日向 明
代表取締役副社長 副社長執行役員	齋 藤 充
取締役 常務執行役員	井手野 高 大
取締役 常務執行役員	花 岡 英 夫
取締役 常務執行役員	石 井 孝 明
取締役 常務執行役員	新 居 康 昭
取締役 常務執行役員	竹 津 久 雄
取締役執行役員	伊 藤 豊
取締役執行役員	秦 正 彦
取締役	澁 澤 登
取締役	杉 山 雅 洋
取締役	中 山 慈 夫

● 監査役

常勤監査役	和 田 貴 志
常勤監査役	渡 邊 善治郎
常勤監査役	今 野 洋 美
監査役	藤 田 讓

● 執行役員

常務執行役員	島 内 技
常務執行役員	安 藤 伸 樹
常務執行役員	田 淵 秀 明
常務執行役員	辻 幸 則
執行役員	藤 居 憲 二
執行役員	後 藤 康 弘
執行役員	村 上 浩 之
執行役員	寺 井 克 宏
執行役員	横 尾 行 雄
執行役員	小 淵 雄 二
執行役員	高 橋 康 紀
執行役員	近 藤 晃
執行役員	井 手 憲 文
執行役員	田 中 和 志
執行役員	青 山 陽 一
執行役員	杉 山 龍 雄
執行役員	佐久間 文 彦
執行役員	秋 田 進

※ 取締役 杉山 雅洋、中山 慈夫の両氏は社外取締役であります。
監査役 渡邊 善治郎、今野 洋美および藤田 讓の3氏は社外監査役であります。

株式の状況

株式数	発行可能株式総数	3,988,000,000 株
	発行済株式の総数	1,062,299,281 株
株主数		71,108名

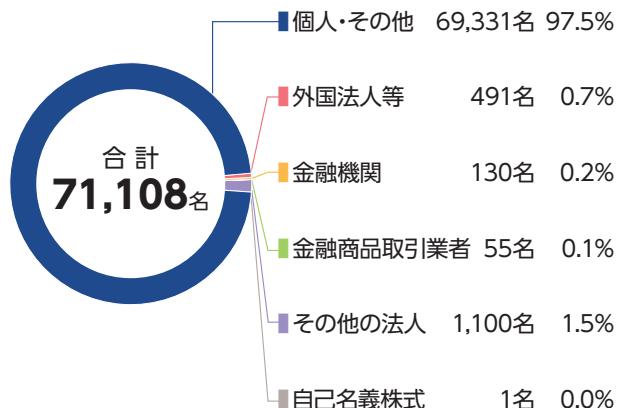
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	82,501	8.0
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	82,138	8.0
朝日生命保険相互会社	56,019	5.5
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	50,967	5.0
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	41,500	4.0
日通株式貯蓄会	36,381	3.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	23,191	2.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	21,316	2.1
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	11,280	1.1
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌブイ 10	10,152	1.0

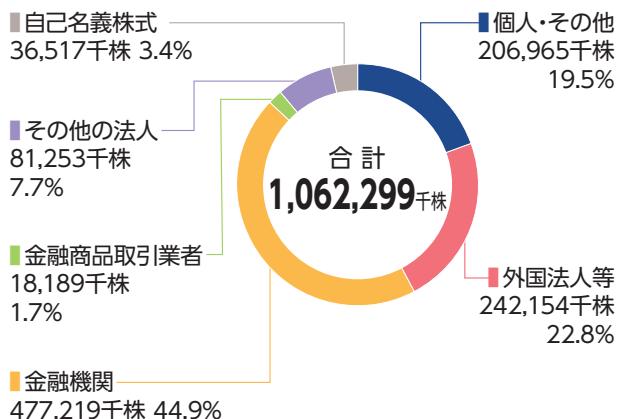
※当社は、自己株式36,517千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

所有者別株式の分布状況

● 株主数および比率



● 株式数および比率



株主さまインフォメーション

Information

株式Q&A

Q 特別口座にある株式を
証券会社の口座に
振替えたいのですが…

A あらかじめ、証券会社に口座開設をした
後で、当社の特別口座の口座管理機関
である三菱UFJ信託銀行までお申し出下
さい。単元未満株式についても振替が可能で
す。振替にかかる手数料はございません。

Q 単元未満株式を
処分したいのですが…

A 当社では、下記のように単元未満株式
の**買取・買増請求制度**を採用しており
ますので、特別口座の口座管理機関である三
菱UFJ信託銀行までお申し出下さい。

※すでに、単元未満株式を特別口座から証券会
社の口座に振替えられた場合は、振替先の証
券会社にお申し出下さい。

単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求 1,000株未満の株式を、当社に対して
市場価格で売却できる制度です。

(例) 600株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場
価格で当社が買い取りいたします。

当社に市場価格で
売却
600株 - 600株 =  **現金化**

買増請求 1,000株(単元株式)に不足する数の株式を、
当社から市場価格で買い増し、単元株にする
ことができる制度です。

(例) 600株を保有の場合、400株を買い増して、1,000株と
することができます。

400株を、当社から市場価格で
購入
600株 + 400株 = 1,000株 **単元株式 (1,000株)**

各種お手続きのお申し出先

- ①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社
- ②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行

(※下記までお問い合わせ下さい。)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-232-711

☎ 0120-244-479(用紙ご請求専用)

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては当社
ホームページでもご案内してお
ります。

[http://www.nittsu.co.jp/
ir/procedure/index.html](http://www.nittsu.co.jp/ir/procedure/index.html)

日本通運 株式諸手続き

検索



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	期末配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
単元株式数	1,000株
上場取引所	東京
証券コード	9062

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711
公告方法	電子公告 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告掲載ホームページアドレス http://www.nittsu.co.jp/

ホームページ紹介

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報、サービス情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供いたしております。



こちらから当社IRサイトをご覧ください。



IR資料室

IR資料室では次のような資料をご覧ください。

- 決算短信
- IRニュース
- 有価証券報告書
- アニュアルレポート
- ファクトブック

日本通運

検索

<http://www.nittsu.co.jp/>

世界日通。

あなたのグローバルビジネスをフルサポート。

Euro Bridge 3000 [NETHERLANDS - POLAND - RUSSIA]



日本通運は今、オランダ・ロッテルダムからポーランド・ワルシャワを経由し

ロシア・モスクワへ至る独自の一貫輸送サービス、EB3000(ユーロブリッジ3000)を展開。

ヨーロッパ主要都市を結ぶ自社ネットワークと陸上、海上、空の輸送モードを
駆使した高度なロジスティクスサービスを提供しています。

アジアで、アメリカで、そしてここヨーロッパで国境を越えて
あなたのビジネスをフルサポート。世界日通。日本通運です。



〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号
TEL: 03-6251-1111
URL: <http://www.nittsu.co.jp/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。